

令和8年度

事業概要書

長野県立歴史館

県立歴史館の概要

1 沿革

- 平成 6 年（1994 年）11 月 3 日 開館（運営管理を長野県文化振興事業団に委託）
- 平成 17 年（2005 年）4 月 1 日 運営管理を長野県教育委員会に直営化
- 令和 6 年（2024 年）4 月 1 日 組織改正により県民文化部所管へ

2 館の運営方針（役割と機能）

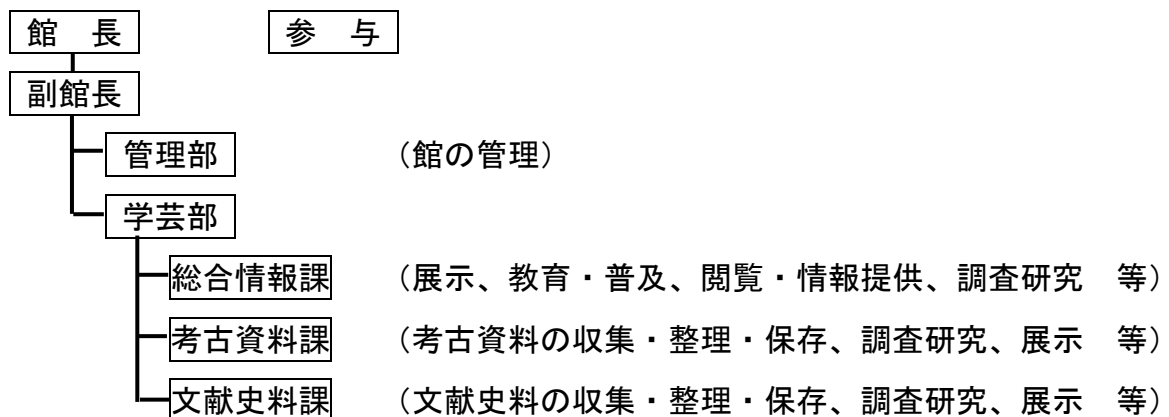
県立歴史館は、長野県の歴史・文化の拠点として、考古資料、文献史料（古文書・行政文書）、その他の歴史資料を収集・整理・保存・調査研究し、展示及び閲覧等により県民に公開・情報提供するとともに、県民の文化財に対する理解の促進や歴史学習を支援する役割を担うことにより、県民の教養と文化振興の向上に寄与する。

長野県立歴史館条例（平成 6 年長野県条例第 24 号）＜抜粋＞
（設置）

第 2 条 考古資料、歴史的価値を有する文書、その他歴史資料等を収集し、保存して、広く県民の利用に供し、その教養及び文化の振興に寄与するため、長野県立歴史館を千曲市に設置する。

3 館の組織体制（令和 8 年度）

（1）組織及び主な業務



（2）職員体制

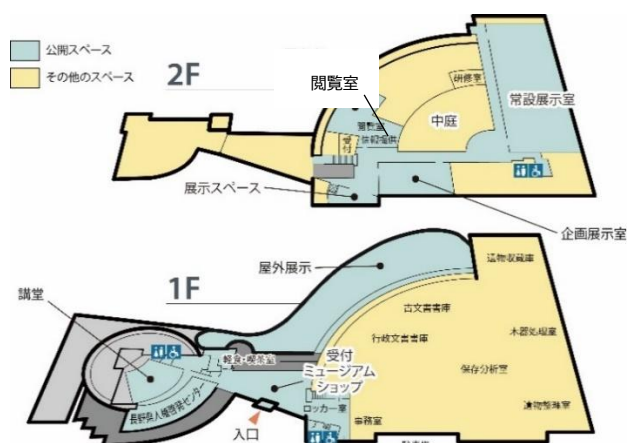
令和 8 年 4 月 1 日現在（単位：人）

区 分	正規職員			会計年度 任用職員	合 計	(R7 比)
	行政職	教育職	小 計			
館長兼管理部長	1		1		1	
副館長兼学芸部長		1	1		1	
管理部（部長除く）	3		3	5	8	
学芸部（ 〃 ）	6	11	17	18	35	
総合情報課	(3)	(7)	(10)	(2)	(12)	
考古資料課	(3)	(1)	(4)	(7)	(11)	(会計+1)
文献史料課		(3)	(3)	(9)	(12)	(-1)
合 計	10	12	22	23	45	

4 施設

○敷地面積：19,396 m²

○建築面積：6,702 m²（延床面積 10,457 m²）、鉄筋コンクリート造、地上2階



<主な取組の R7 実績> ()内は R6 実績

① 県内小学校による見学

176 (178) 校、8,392 人 (8,982 人)

全県 354 校の 50% (54%)

北信 92% (86%) 東信 73% (71%)

中信 43% (39%) 南信 6% (8%)

② アウトリーチ型講座

● 出前講座（一般向け）

29 回 (45 回)、1,142 人 (2,257 人)

● お出かけ歴史館（子ども向け）

4 回 (3 回)、186 人 (141 人)

5 館利用者数の状況

(単位：人)

年 度	展 示		講演・講座 ・ 出前講座等	観 覧	合 計
	常設展示	企画展等			
平成 6 年度	50,375	34,685	1,033	6,797	92,890
7 年度	99,478	23,470	3,086	11,887	137,921
8 年度	74,438	21,029	2,299	10,466	108,232
9 年度	59,968	15,585	3,133	8,067	86,753
10 年度	53,651	32,586	3,608	8,362	98,207
11 年度	53,814	30,392	3,617	8,461	96,284
12 年度	47,604	25,781	3,540	9,355	86,280
13 年度	46,303	34,352	4,346	7,573	92,574
14 年度	45,106	33,887	6,384	7,566	92,943
15 年度	43,813	33,400	12,952	7,070	97,235
16 年度	43,889	32,797	12,429	6,287	95,402
17 年度	44,855	33,585	12,263	8,232	98,935
18 年度	46,362	37,866	14,360	13,642	112,230
19 年度	46,874	42,691	15,217	12,454	117,236
20 年度	41,790	32,316	13,089	10,815	98,010
21 年度	41,089	32,507	14,774	10,002	98,372
22 年度	40,839	29,969	12,175	9,916	92,899
23 年度	43,383	33,676	11,057	6,118	94,234
24 年度	42,154	37,674	11,953	7,201	98,982
25 年度	39,323	32,603	13,091	7,205	92,222
26 年度	39,897	34,614	21,004	7,855	103,370
27 年度	41,609	31,886	24,536	6,963	104,994
28 年度	44,673	32,199	31,424	4,094	112,390
29 年度	40,765	25,780	32,263	4,244	103,052
30 年度	40,002	26,848	30,743	3,731	101,324
令和 元年度	54,247	40,950	23,095	4,024	122,316
2 年度	21,764	16,127	3,364	2,523	43,778
3 年度	25,831	22,162	30,649	2,419	81,061
4 年度	25,689	18,929	19,048	1,513	65,179
5 年度	24,493	16,847	22,747	2,446	66,533
6 年度	29,159	21,503	9,262	2,618	62,542
7 年度	28,662	23,206	7,387	2,557	61,812
合 計	1,421,899	941,902	429,928	222,463	3,016,192

6 収蔵史資料数

(令和7年度末現在)

区 分	展示資料	図 書	考古資料	文献史料
点 数	2,425 点	156,088 冊	29,382 箱	454,405 点

7 収蔵史資料の文化財指定状況

指定区分	種 別	名 称	時 代	指定年月日
重要文化財	考古資料	長野県吉田川西遺跡土壙出土品	平安時代	H 2. 6.29
	古 文 書	鳥羽院庁下文	平安時代(天養2年)	H10. 6.30
	考古資料	長野県日向林B遺跡出土品	先土器時代	H23. 6.27
県 宝	歴史資料	大文字の旗	室町時代	H 9. 8.14
	考古資料	動物装飾付釣手土器	縄文時代	H11. 3.18
	古 文 書	屋代遺跡群出土木簡	飛鳥・奈良時代	H16. 3.29
	考古資料	下茂内遺跡出土品	先土器～縄文草創期	H18. 4.20
	書 跡 等	長野県行政文書	江戸期～昭和期	H20. 1.10
	古 文 書	清水家文書	江戸～昭和時代	H20. 4.21
	考古資料	社宮司遺跡出土木造六角宝幢	平安時代	H23. 3.28
	古 文 書	大井法華堂文書	中世～現代	R 6. 3.28

令和7年度の主な事業実績

事業名		実施時期	利用者数	備考
自主事業	常設展	年間(292日)	28,662	
	所蔵品展 原始～開館30年のあゆみ展～	4月1日～6月15日	9,035	10,089人(3月～6月) 1,054人(3月)
	夏季企画展「安曇野ー知られざる里山の祈りー」	7月5日～8月24日	5,609	
	秋季企画展「疫病退散！除災祈願の考古学ー木製祭祀具にみる古代の祈りー」	10月4日～11月16日	4,961	
	冬季企画展「霊場小菅ー飯山の遺産と文化ー」	1月10日～3月1日	2,886	
	所蔵品展「長野県民の戦後再出発」	3月14日～(3月31日)	715	
	企画展関連講演会等 7回実施	7月～2月	1,020	
	県立歴史館講座 7回実施	5月～3月	682	
	県立歴史館出前講座in箕輪・大桑・阿南	6月～11月	50	
	考古学体験講座 3回 ティーンズ考古学講座	8～12月	41	
	考古資料保存技術講習会2回	1・3月	23	
	古文書講座 34回実施	5月～3月	1,086	ティーンズ、フォローアップ、古文書入門、古文書出前含む
	出前講座 29回実施	4月～3月	1,142	
	お出かけ歴史館 4回実施(小中学校・公民館等)	9～2月	186	
	各種講習会・イベント 9回実施	5月～3月	1,354	こどもの日、埋文チャレンジ、夏休み、企業連携、クリスマス映画会
	その他 史資料等の閲覧	4月～3月	2,557	
共催事業等	講演会・講座	考古学セミナー	6・11月	142 長野県考古学会
		近世史セミナー	12月	31 信濃史学会
		長野県史料保存活用連絡協議会講習会 4回実施	5・10・11・1月	110 県史料協
		古文書愛好会 読む会 8回実施 演習 23回実施 総会講演会 探訪会	6～2月	697 古文書愛好会
		信州大学学芸員資格取得講座(博物館展示論・メディア論)	9月・2月	91 信州大学
		博物館関係職員等研修会	2月	115 県博協
		長野県総合教育センター研修	7月	24 県総合教育センター
		地域展他連携展示(中央4県)	2～3月	593 キッセイ文化ホールにて実施
計			61,812	

令和8年度 長野県立歴史館 事業計画（概要）

1 運営方針

長野県の歴史・文化の拠点として、考古資料、文献史料（古文書、行政文書）、その他の歴史資料を収集、整理、保存及び調査研究し、展示及び閲覧等により県民に公開、情報提供するとともに、県民の文化財に対する理解の促進や歴史学習を支援する役割を担うことにより、県民の教養と文化振興の向上に寄与する。

2 事業計画の概要

(1) 重点事業

- ア 館のリニューアルの検討
- イ 公文書に関する事務の効率的かつ着実な実施
- ウ 考古資料保存処理の計画的な推進
- エ 他の博物館や県内市町村等との連携推進

(2) 歴史資料の収集・整理・保存

- ア 信州にゆかりのある歴史資料の収集、整理及び保存
- イ 考古資料の整理・保存処理及び科学分析
- ウ 長野県の行政文書（特定歴史公文書を含む）の整理及び保存

(3) 調査研究

- ア 今後の展示計画も想定した長野県の歴史に関する調査研究
- イ 他団体等との共同研究

(4) 展示・閲覧・情報提供

- ア 展示の充実
 - (ア) 常設展示（計画的な展示替え）
 - (イ) 企画展示（県政150年・研究のあゆみ）
 - a 所蔵品展 「長野県民の戦後再出発」（3/14～6/14）
 - b 夏季企画展 「戸隠の至宝～守り継がれた信仰と由緒」（7/11～8/23）
 - c 秋季企画展 「長野県150年のあゆみ～県民の“お宝”公文書の世界～」(10/3～11/8)
 - d 冬季企画展 「古代の役人と庶民～こうだったんじゃないか古代信濃国～」(11/28～2/14)
- イ 博物館DXの推進（収蔵資料のデータベース化、展示解説アプリ等の検討）
- ウ 歴史資料の貸出し
- エ 他団体との連携
 - (ア) 県内外博物館、県内市町村、大学等との連携協定に基づく事業の推進
 - (イ) 信州大学との連携による研究・展示等の充実
 - (ウ) 他団体との連携による講座（長野県考古学会 考古学セミナー 近世史セミナー等）の開催
 - (エ) 「歴史館パートナーの日」（KOAの日、長野都市ガスの日、須坂市民の日）の開催
- オ 収蔵資料に関するレファレンス
- カ 体験学習及びイベントの開催（歴史館でこどもの日、歴史館で夏休み、開館記念日 等）
- キ 調査研究成果や展示に関する刊行物の発行・発信（展示図録、研究紀要、ブックレット等）
- ク 県立歴史館たより、県立歴史館ホームページ、SNS等を活用した情報提供
- ケ マスコミを通じた歴史情報の発信（信毎コラム「しなの歴史再見」等）

(5) 教育普及（学校教育・生涯学習支援等）

- ア 学校見学の効果的・効率的な実施
- イ おでかけ歴史館（子ども向け、特に南信・木曽地域をはじめとする学校・公民館等の訪問）
- ウ 各種講演・講座の充実
 - 県立歴史館講座(7回)、出前講座(3回)、考古学体験講座(3回)、ティーンズ考古学講座(2回)、古文書探訪会(1回)、古文書講座(25回)、ティーンズ古文書講座(2回)、古文書フォローアップ講座(1回)、古文書入門教室(1回)、古文書相談会(12回)
 - 県立歴史館出前講座（一般向け・アウトリーチ型）
- エ 地域展示（市町村の博物館・公民館等公共施設）の支援
- オ 技術講習会の実施（考古資料保存技術講習会、文献史料保存活用講習会 等）
- カ 職場体験学習・インターンシップ、博物館実習、教職員研修等

(6) ボランティアの活用・育成

各種事業活動（展示解説、資料整理・保存、図書整理、体験イベント等）の支援

新たな歴史館の創造をめざして

ー長野県立歴史館中長期目標(2020～2029年)ー

I 長野県立歴史館の使命と基本目標

1 使命

長野県立歴史館は、長野県に関する歴史遺産の収集・整理・保存・調査研究を通じて、それらを未来に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、将来を展望する場、楽しみ・憩い・交流する場としての役割を果たします。また、地域に貢献する県内博物館・文書館等の中核、歴史情報の拠点を目指します。

2 基本目標

使命実現のため、以下の(1)～(5)の基本目標を掲げて活動します。

- (1) 長野県民の歴史遺産(考古資料、歴史的価値を有する文書、その他の歴史資料)を未来に継承するための取り組みを進めます。
- (2) 未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします。
- (3) 楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします。
- (4) 県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます。
- (5) 県内博物館・文書館等の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます。

II 基本目標の実現に向けて

1 長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取り組みを進めます。

信濃国・長野県の歴史を物語るさまざまな史資料を収集・整理・保存し、その内容を調査研究し、さらにそれを後世に歴史遺産として確実に伝える必要があります。このなかで、最も基礎的な、史資料を保存・継承するという機能を発揮できるようにさまざまな取り組みを行います。

- (1) 考古資料・歴史的価値を有する文書(公文書、古文書等)・その他歴史資料等(以下「史資料」と略記)を収集・整理・保存し、調査研究を行います。

○史資料の収集、整理

長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理します。また、当館が公文書館の機能を有し、長野県公文書等の管理に関する条例に基づいて、歴史公文書等の収集を適切に行うよう取り組みを強化します。

○史資料の保存

収集・整理した史資料に対し、必要に応じて適切な保存処理・修復を行い、適切な環境で保存します。また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。

○史資料の調査研究

長野県の歴史を明らかにするために、収集・整理した史資料に関する調査研究を行い、史資料を県民のかけがえのない文化財・歴史遺産として位置づけ、その歴史的価値を明らかにします。展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内外文化財の調査研究を行います。また、後世に伝えるために史資料の情報収集、所在や現状把握に務めます。

- (2) 史資料の保護(保存・活用)に取り組むとともに、保護思想を啓発します。

○文化財の保護（保存・活用）

市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。

○史資料の保存（調査、取り扱い、保存処理）に関する講習会、研修会の開催

県立博物館・文書館・文化財保存修復機関・研究機関として、市町村・県内博物館等への支援、助言を行います。

○埋蔵文化財保護に関する市町村への支援

遺跡・遺構・遺物の保護、発掘調査・研究、研修などに関し支援します。

○公文書等の保存・活用に関する県、市町村等への支援

県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援します。

2 未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします。

歴史知識とは、史資料をとおして先人の生活、生き方、知恵に学び、そこから未来を切り開く示唆を発見していく営みの源泉です。歴史館は、史資料の調査研究、収集・整理・保存という基礎的な活動を行いながら、さらに長野県の歴史を明らかにする活動を通じて、得られた成果を展示や講座・講演会、刊行物、ホームページ、SNSなどの普及活動を通じて県民に広め、そこから未来への展望を得られるべく積極的に活動します。

(1)長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します。

○常設展示の充実

定期的な展示替えや新展示をするなど展示の改善を図り、総合調査の成果を生かした総合展示を実現します。さらに県民のニーズに沿った全面的なリニューアルを進めます。

○企画展示の充実

県民のニーズに沿った企画展を実施するとともに、企画展示の充実を進めます。また、理想的な環境で文化財を公開できるように環境整備を行い、企画展示室のリニューアルを実現します。

○専門分野の協力による総合調査の実施

考古資料、文献史料、総合情報の3部門及び館外研究者等の協力による長野県の歴史に関する総合的な研究を行います。

○県内外の研究団体、研究者等と協力した調査研究の実施

県内外の地方史研究団体、郷土史・地方史研究者、市町村文化財保護部局、博物館、大学等と協力した調査研究を実施します。

○新たな長野県史の編纂に関する史資料の調査・収集等

長野県によって推進された戦前までを範囲とする「長野県史」を受け継いで、その後の長野県の歩みを明らかにする「長野県現代史」をはじめとする県史編纂のための史資料の調査・収集をします。

(2)県民の生涯学習を支援します。

○展示解説の実施

常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説します。

○講演会・講座等の開催

企画展講演会及び講座（古文書講座、県立歴史館講座）を開催します。

○各種出版物の発行

ブックレット、研究紀要、史料目録、企画展・常設展図録、館たよりなどを発行します。

○体験学習の実施

各種体験学習を開発し、実施します。

(3)学校教育を支援します。

○学校教育への協力、連携

社会科授業や小中の総合的な学習、高校の探究の時間の一環として歴史館を積極的に活用してもらえるようにします。さらに博物館実習をはじめとする大学教育との連携を図ります。

○職場体験の受け入れ

中学、高校、大学での職場体験事業（インターンシップ）の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館等への認識を深める機会を設けます。

○教員研修の実施、協力

県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。

(4)歴史情報を提供します。

○館蔵史資料の閲覧

考古資料、文献史料、図書資料等を閲覧できるようにします。

○レファレンスへの対応

県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。

○ホームページの充実

歴史情報提供の有力な手段の一つとして誰もが活用できるように、使いやすさに配慮したホームページを充実させます。

○歴史情報提供システムの整備

館蔵史資料情報をデータベース化し、ホームページ等を通じて的確に情報提供します。

○マスコミ等による歴史情報の発信

広く歴史情報を県民に伝えるために、マスコミ等により積極的に情報を発信します。

○常設展示室での情報機器による提供

メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。

3 楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします。

歴史館は訪れる人々が歴史をふりかえり、未来を展望する場であるとともに、楽しみ、憩える場であり、多くの人々が交流することができる場でありたいと考えます。特に、未来を担う子どもたちが楽しみながら歴史を体感でき、家族や友人とともに積極的に訪れたいとする歴史館を目指します。

(1)楽しむことができる場とします。

○子どもたちが楽しみながら歴史を体感できる空間の提供

子どもたちが歴史を楽しみながら体感し、遊びを通して学ぶことのできる空間を提供します。

また親子や家族で語らい、世代間のコミュニケーションを促進する場や機会を提供します。

(2)人が交流でき、憩える場とします。

○来館者、ボランティア、館職員などの交流の実現

展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、来館者同士、あるいは来館者とボランティア・館職員が気軽に交流する場や機会を提供します。

○憩える場の環境整備

観覧の合間に休息できる空間や施設、そして自然環境を満喫して憩いの空間となる屋外展示を充実します。

(3)県民が参画した館の運営をすすめます。

○館の史資料を活用した自主学習の会の育成

県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。

○ボランティアの育成

展示案内、体験学習、史資料整理・保存などの館活動へ主体的に参加するボランティアを育成し、ともに活動します。

○利用者の意見を反映した館の運営

館の運営に、アンケート等により寄せられた意見を反映させていきます。

4 県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます。

歴史館から離れた地域へは職員が訪問して講座を行うなど、県内全域で県民、子どもたちの歴史学習を支援します。また地域活性化に活きる情報発信、地域課題を捉えた調査研究などを進め、地域に貢献していきます。

(1) 県内全域における県民の生涯学習および子どもたちの歴史学習を支援します。

○出前講座等の実施

歴史館から離れた地域の博物館等へ館職員が伺い、館主催の講座を開催します。また、県内全域の博物館等からの依頼に応じ、講演会等を行うために職員を派遣します。

○出前授業等の実施

歴史館から離れた地域の学校・公民館と連携し、館職員が貴重な史資料とともに赴いて授業を行います。また、県内全域の学校（小・中・高校や大学等）からの依頼に応じて授業を行うために職員を派遣します。

(2) 地域活性化につながる情報発信を進めます。

○地域活性化につながる情報発信

積極的な情報発信による地域の活性化に寄与します。

(3) 地域課題を捉えた調査・研究を推進します。

○地域課題の調査・研究

県の関係部局、県内外の博物館等と連携して、地域課題・地域文化の調査・研究を行います。

5 県内博物館・文書館等の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます。

県内の博物館の中核としての役割を充実させるために、国・地方自治体の博物館、研究機関、各種団体、県民と連携して開かれた歴史館づくりを進める必要があります。また、これからの歴史館の創造的発展をはかるためには、来館者を中心とした館蔵史資料の利用に留まらず、館外からも県内外の歴史資料情報が利用できる環境を整える必要があります。そのための歴史情報のデータベース化、デジタル化を進め、インターネットを通じて情報共有できる環境を整備します。

(1) 県内外諸機関との連携を進めます。

○県内外の博物館等との連携

県内博物館・文書館等の中核として県内外の博物館等との連携を進め、史資料の収集・整理・保存及び調査・研究、情報共有等の活動を充実させます。

○県内外諸機関との連携

県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。

○県内外の歴史情報の収集

歴史情報（市町村資料情報、県内外歴史雑誌情報等）を収集し、集約します。

(2) 県内歴史情報のデータベース化、デジタル・アーカイブの推進と情報提供

○県内歴史情報のデータベース化

集約した県内の歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。

○県内歴史情報のデジタル・アーカイブの推進

データベース化した県内の歴史情報のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブにまとめます。

○インターネットを活用した県内歴史情報の提供

データベース化、デジタル化した県内の歴史情報をインターネットを活用して提供します。

県立歴史館 県民に親しまれる歴史館を目指して 企画展テーマ

現 況

- 開催年の3年前（4月頃）に館職員（部課長含）、各課、時代別研究会、展示企画委員会が各種アンケートも参考に企画展テーマを提案。
- 館内の展示企画委員会がとりまとめ、その年（3年前）の10月に部課長会で決定。前々年に基本構想、前年に基本設計及び実施設計を行うのが基本的流れ
- 令和6年度は、時代別研究会からの提案数を増やすなど、提案力の強化について検討

入場者の多い企画展（開館以来 10,000 人を越えたもの）

	年度	区分	タイトル	サブタイトル	主な時代別(4区分)	主たる地域(数)	開催期間	日数	企画展入館者数
1	1994 平成6年度	(開館記念)	赤い土器のクニ		原始	全県	11/3～12/11	38日	29,848
2	2015 平成27年度	巡回展	長野県の遺跡発掘2016	埋蔵文化財センター速報展	原始～現代	全県	3/12～6/26	95日	18,438
3	2019 平成31年度	特別企画	土偶展前期展 国宝土偶	縄文文化の多様な個性	原始	-	10/26～11/10	16日	15,041
4	2016 平成28年度	巡回展	長野県の遺跡発掘2017		原始～近世	全県	3/18～6/25	87日	13,039
5	2018 平成30年度	巡回展	長野県の考古学2019	時代を映す“匠”の技	原始	全県	3/16～6/23	86日	12,975
6	2014 平成26年度	速報展	長野県の遺跡発掘2014	長野県埋蔵文化財センター速報展	原始～近世	全県	3/21～6/1	65日	12,680
7	2009 平成21年度	春企	善光寺信仰	流転と遍歴の勅化	近世	北信	4/11～6/7	51日	11,776
8	2008 平成20年度	秋企	よみがえる氷河時代の狩人		原始	全県	9/25～11/24	53日	11,145
9	1995 平成7年度	秋企	信濃における戦国争乱の世界		古代・中世	全県	10/21～11/26	30日	10,873
10	2004 平成16年度	秋季	中世信濃武士意外伝	義仲から幸村まで	古代・中世	全県	10/2～11/14	38日	10,543
11	2024 令和6年度	所蔵品展	原始	開館30年のあゆみ展	原始	全県	3/15～6/15	78日	10,146
12	2006 平成18年度	秋企	戦時下の子どもたち	信州の一五年戦争	近現代	全県	9/30～11/12	33日	10,004

時代別（回数）		地域別（回数）	
原始	24	全国	1
原始～中世	3	全県	76
原始～近世	7	巡回展	1
原始～現代	3	北信	20
古代～中世	16	東信	2
中世	1	南信	15
近世	29	中信	8
近現代	33	東北信	1

ここ数年の展示の観覧者数（当館年報より抜粋）（単位：人）

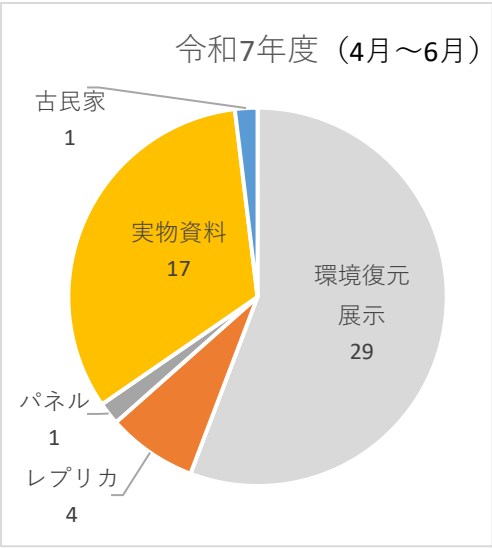
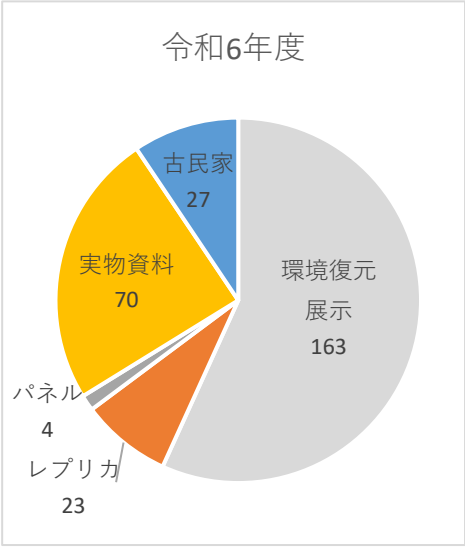
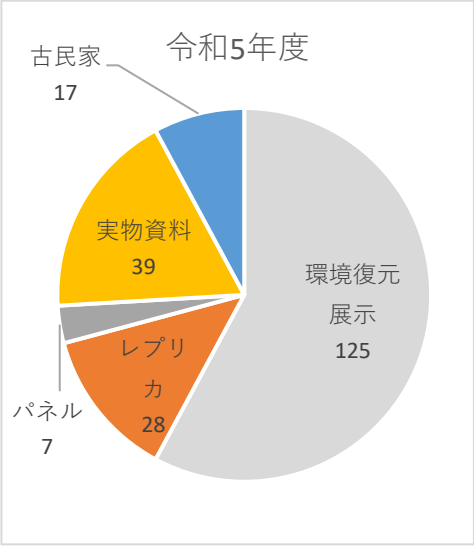
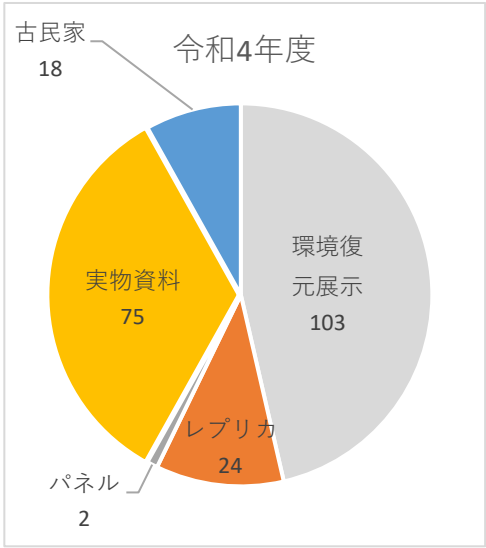
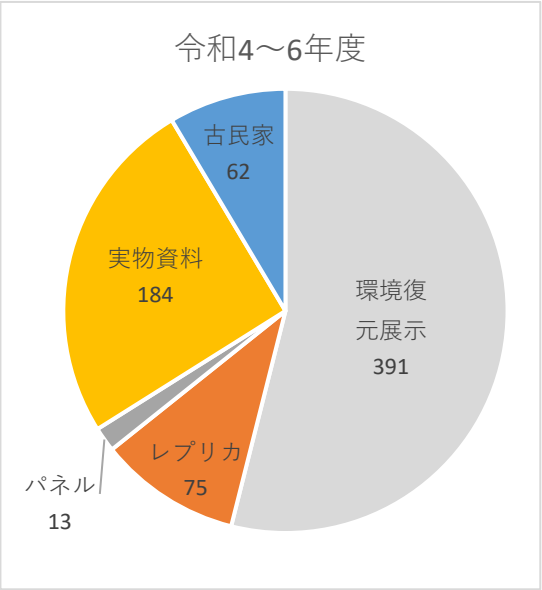
項 目		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
観覧者数	常設展示	40,002	54,247	21,764	25,831	25,689	24,493	29,159	28,662
	企画展示	26,848	40,950	16,127	22,162	18,929	16,847	21,503	23,206
合 計		66,850	95,197	37,891	47,993	44,618	41,340	50,662	51,868

令和7年度 企画展示の観覧者数（単位：人）

所蔵品展 原始 ～開館30年のあゆみ展～	9,035
夏季企画展「安曇野ー知られざる里山の祈りー」	5,609
秋季企画展「疫病退散！除災祈願の考古学ー木製祭祀具にみる古代の祈りー」	4,961
冬季企画展「霊場小菅ー飯山の遺産と文化ー」	2,886
所蔵品展「長野県民の戦後再出発」	715

常設展 印象に残った展示

	件数					割合				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
環境復元展示	103	125	163	29	420	50.5%	57.9%	56.8%	55.8%	55.3%
レプリカ	24	28	23	4	79	11.8%	13.0%	8.0%	7.7%	10.4%
パネル	2	7	4	1	14	1.0%	3.2%	1.4%	1.9%	1.8%
実物資料	75	39	70	17	201	36.8%	18.1%	24.4%	32.7%	26.5%
古民家	18	17	27	1	63	8.8%	7.9%	9.4%	1.9%	8.3%
合計	204	216	287	52	759	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



	令和4～6年度
環境復元展示	391
レプリカ	75
パネル	13
実物資料	184
古民家	62

長野県立歴史館の課題について

7 年度歴史館協議会での議論

「令和7年度歴史館協議会」における委員意見の概要 (当日の資料は別紙)

常設展示の内容について

- ・ 博物館の中心は常設展示
- ・ 大きな常設展示の一部を変えるのでは、集客効果が上げにくい
- ・ いつ来ても新しい発見や経験や何か学びがあるかという観点から常設展示の内容を考えるべき。
- ・ 常設展示の中に定期的に何か新しいものを入れたり、新しいコーナーをつくって、そこに来た人が、新しいものがあると思ってもらえるかどうかという点が重要
- ・ 来館者にとって魅力のあるのは考古。それについて中世の武士団。近世ほど人気はない。

通史型展示とテーマ型展示

- ・ テーマ型にすると小・中学校の生徒にはわかりにくい
- ・ 歴博では、テーマ型展示だと言いながら、部屋は通史的に分かれている
- ・ 通史型の展示のメリットもある。やっぱりわかりやすい。
- ・ 通史の中にテーマ型をどう入れるかは難しい。ひとたび固定してしまうとなかなか変更できない。一つのアイディアは、企画展示でよいパッケージができたならそれを通史展示のところで活用する方法がある。

環境復原展示について

- ・ 体感展示は効果的
- ・ 環境復原展示をどうするかというのも大きな問題。インパクトはあるが、1回来た人はもう来ない。大きな目立つ環境復原展示と常設展示との関係についてはよく考えていただきたい
- ・ 考古中世ぐらいまでは環境復原展示の方がわかりやすかったりするが、一度作ると壊せないという重みを考えるべき。
- ・ 予算的な問題もあるので、環境復原展示についても人気のあるものだけを残すという考えもある。
- ・ 今までの展示スペースっていう考え方から、環境復原された展示の中で、見学者たちも含めて企画者たちがそこで一つの出来事を作っていくっていうような考えでリニューアルできないかなと思う。体験スペースなど、単なる展示ではないステージを作っていったらどうか。

多様な入館者への対応について

- ・ 子どもたちがその場でやることによって関係者が来てくれる。歴史館の展示を見る気がなかったけど、見てくれる。あえて関係ない人を入れることが多分大事。
- ・ 常設展示はバリアフリーの観点からちょっと暗い。また、多言語化の対応ができていない。
- ・ ホールがもったいない。コンサートや演劇で活用しそこに来た人たちが博物館についでに寄って行くような発想も大事。

長野県立歴史館のリニューアル案について

- 開館から30年が経過し、施設・設備等が老朽化。貴重な歴史資料の収蔵スペース逼迫も顕著。
- 常設展示は、体験を重視した復原展示が主体。展示資料は随時見直しているが、大幅な見直しは困難。
- 今後、①常設展示の全面リニューアル、②展示室内の温湿度管理など展示環境整備、③展示室以外の老朽化対応も含めた機能充実にに向けた取組が必要

県立歴史館リニューアル 今後の取組の方向性

令和8年には長野県150周年を迎えるほか、新たな長野県史の編さんに着手することなど、長野県の歴史を見つめなおす契機となることに加え、本年3月に策定した長野県DXアクションプランに基づく県立歴史館のDX化などの新たな課題も生じていることから、改めて、将来に向けた歴史館のあり方について検討が必要。県史編さんによる増加分を見込んだ歴史資料の必要収蔵量や、施設・設備の老朽化の実態など、歴史館のあり方検討の基礎となる事項について、今年度から順次調査していく

※R7.6.26

長野県議会6月定例会一般質問

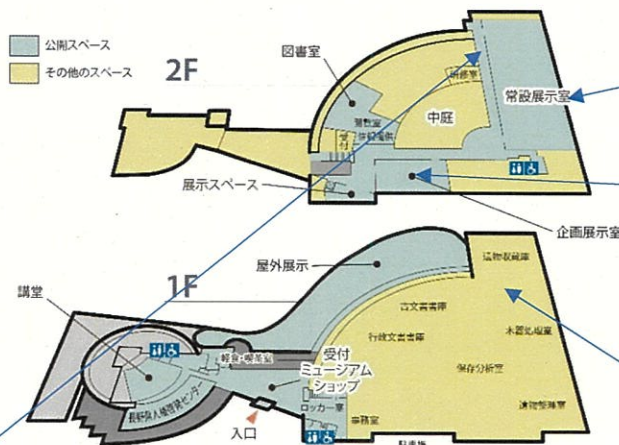
自民党竹内正美議員からの質問への知事答弁

① 常設展示の全面リニューアル

○常設展示リニューアルの方向性※総合情報課

- 論点1 テーマ型と通史型の比較検討
- 論点2 環境復原展示と収蔵資料展示スペースのあり方
- 論点3 映像機器とコンテンツ案に係る検討
- 論点4 バリアフリー化、多言語化、乳幼児対応

※常設展示リニューアルのあり方検討(R5)



② 展示環境のリニューアル

- 常設展示室の環境整備※総合情報課
屋根天井の修繕、空調設備の更新（今後検討）
- 企画展示室の環境整備※総合情報課
空調設備の更新（R7 設計、R8 で更新工事）

③ その他の機能充実にに向けた取組

- 収蔵スペースの拡張※考古資料課、文献史料課
考古資料の収蔵スペース等の拡張（今後検討）
- 中長期修繕・改修計画(R8~R17)※管理部、学芸部
劣化度調査による修繕必要箇所の把握等（今後検討）
- デジタル化による情報発信※総合情報課
館蔵資料の電子データ化を進め利活用促進（今後検討）
- 照明器具のLED化※管理部、学芸部
照明設備のLED化（R7 設計、R8 工事）※企画展示室

常設展示のあり方について

展示内容について

- ・学校見学における児童生徒、一般県民、県内外からの観光客、外国人、障がい者など、子どもから高齢者など多様な利用者に楽しんでもらえる展示内容にする。

○開館以来大きな変更がなされていないテーマの内容、時代ごとのスペースのバランスを見直し、最新の研究や発掘調査、さらには学際的研究の成果に基づいた新たな信濃国・長野県の歴史像を提示したらどうか。

○常設展示の中で扱う県内各地域のバランスを見直し、地域との連携に基づく展示を展開したらどうか。

○戦後史（現代史）の展示スペースを拡充し、※新たな県史の編纂事業の成果を県民に発信することで、これからの長野県を見通す展示を展開したらどうか。

※令和8年度開始予定の、県史（現代編）編さん事業

常設展示の展示構成

通史型展示とテーマ型展示について

- ・ いつ来ても新しい経験や学びがある常設展示となるよう検討する。
- 日本史の時代区分に沿った時系列による展示を主軸に、必要に応じテーマを挿入し、歴史の体系的な理解に加えて本県歴史の特色をわかりやすく伝えることができるようにしたらどうか。
- 児童生徒の歴史学習に資する通史部分については固定的な展示内容とし、通史展示では十分に扱えない部分を可変的なテーマ展示が可能となる複合的な展示を目指したらどうか。

常設展示の展示構成

通史展示について

- 通史の骨格となる軸（生活史、文化史、政治史等）を設定し、軸に沿って歴史の変遷を理解することができるようにしたらどうか。
- 当館の常設展示は、学校訪問で訪れる児童生徒が、総合的な学習や歴史学習に活用している状況があることから、通史展示の内容は、学習指導要領などに配慮した展示としたらどうか。

常設展示の展示構成

テーマ型展示について

- 通史的な流れにとらわれないテーマ設定に基づく展示を通じて、収蔵資料の研究成果をより柔軟に発信していく展示スペースを確保したらどうか。
- 令和8年度からはじまる新たな県史編纂の研究結果の展示が可能となるよう、近現代史については、展示内容の自由度をある程度高めた可変的な展示が可能となるよう必要なスペースを確保したらどうか。

常設展示の展示構成

実物大の環境復原展示の扱い

- ・環境型復原展示は、インパクトはあるが、固定的であるがゆえにリピーターに繋がりにくいといった課題や、維持コスト、更新困難性、内容の固定化といった課題がある。

○実物大復原展示のあり方をどうしたら良いか。

環境復原型展示の検討

- ・ 赤沢自然休養林 ・ ナウマンゾウ ・ 阿久堅穴住居 ・ 阿久高床建物（縄文のムラ景観）
- ・ 善光寺門前 ・ 近世中農農家 ・ 片倉組外観 ・ 六工社製糸工場 ・ 大正時代の教室

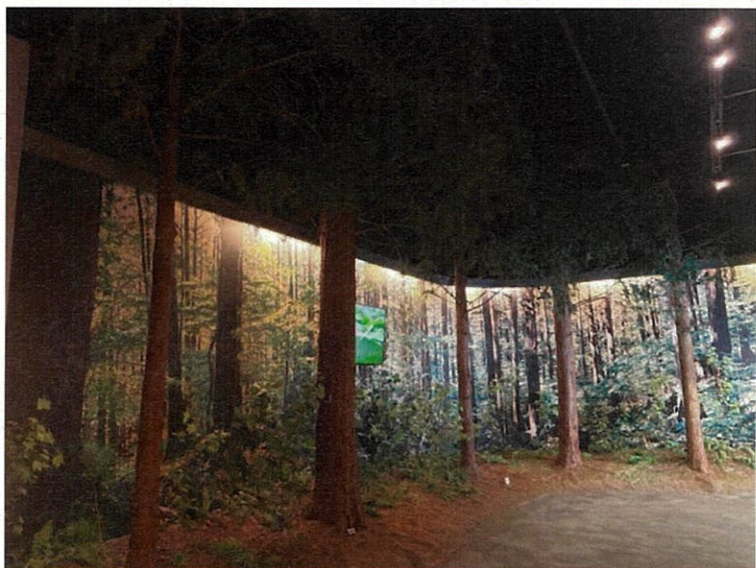
常設展示の展示構成

屋外展示「歴史のこみち」の扱い

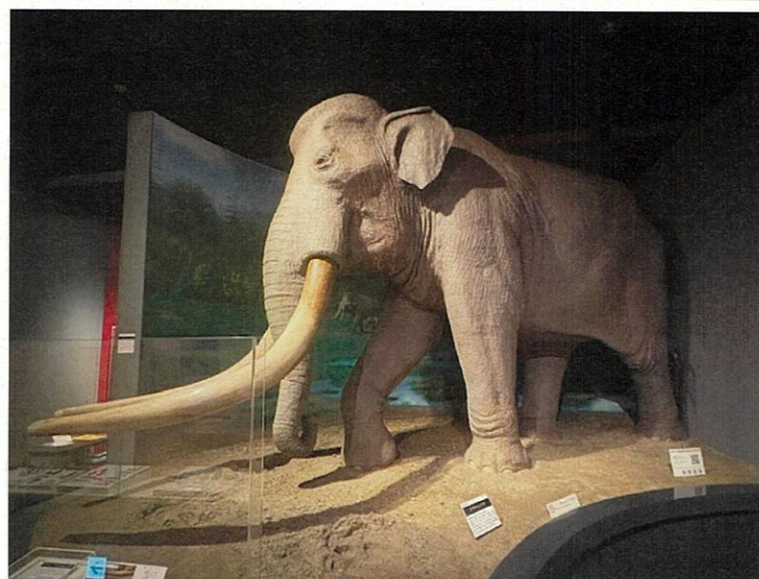
- ・屋外展示では縄文・古代・中世それぞれの植物を再現し、県内各地で発掘された遺構を配置している。
- ・30年を経過し、植物と遺構が劣化しており、利用頻度も低くなってしまっている。

○屋外展示を効果的な展示にするとしたら、どのような方向性が考えられるか。

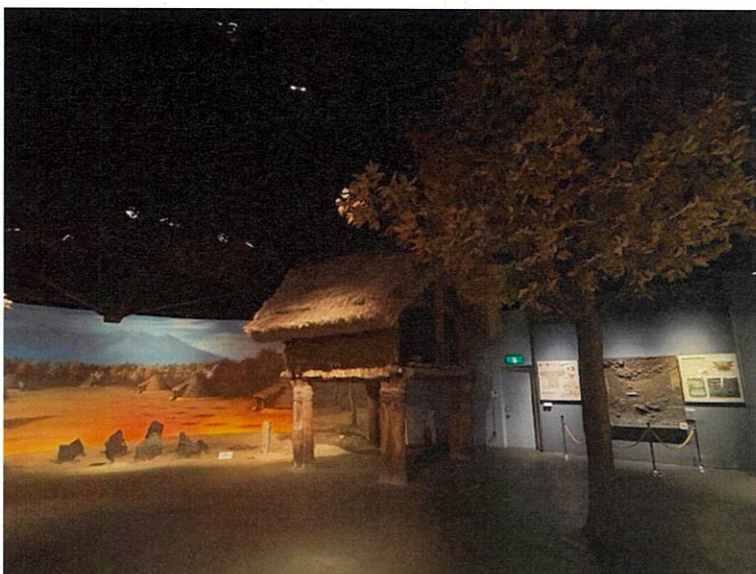
長野県立歴史館の環境復原展示



赤沢自然休養林



ナウマンゾウ



阿久高床建物



阿久竪穴住居

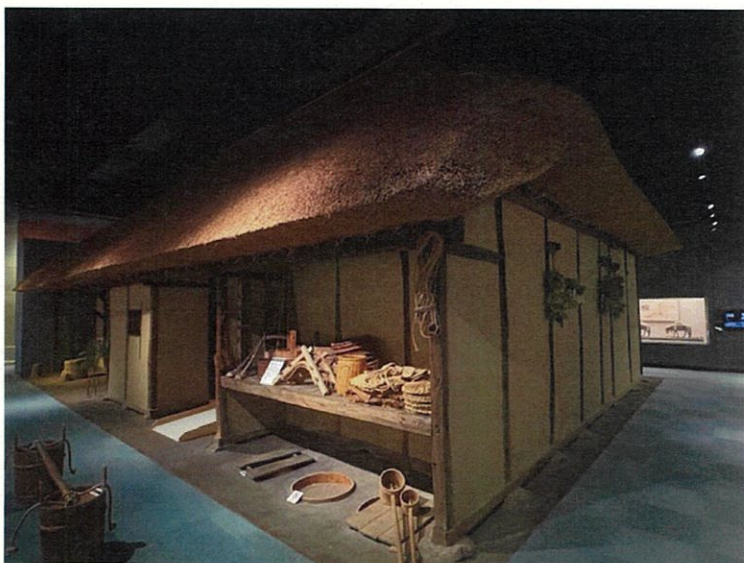
長野県立歴史館の環境復原展示



善光寺門前



善光寺南大門



江戸前期中農農家

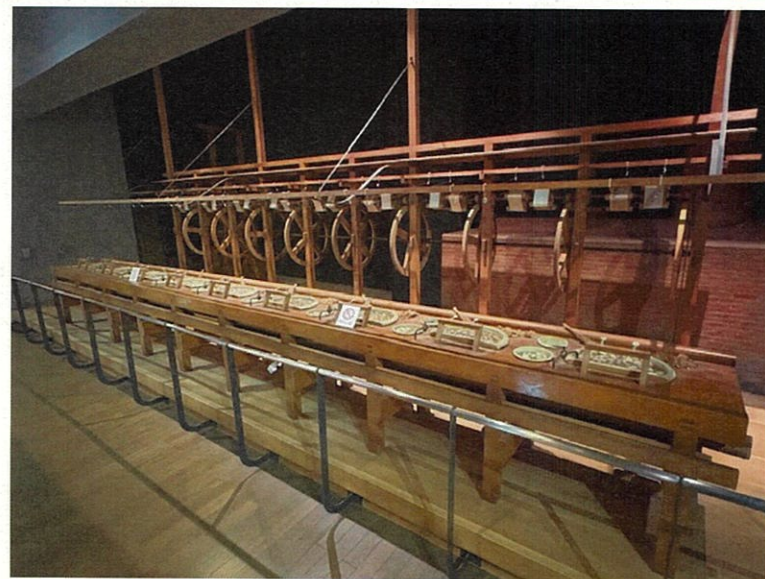


中農農家内部

長野県立歴史館の環境復原展示



片倉組外観



六工社製糸場



大正期の学校の教室

長野県立歴史館の環境復原展示

敷石住居の敷石
縄文後期（3700年前ころ）
長野市村東山手遺跡



石棺墓の石組み
縄文後期（3700年前ころ）
長野市村東山手遺跡



万葉の野の植物

- ・サンショウ
- ・ヘクソカズラ
- ・オケラ
- ・ムラサキ
- ・クヌギ
- ・ヤマアジサイ
- ・ヤマツツジ
- ・ヤマハギ
- ・フキ
- ・ナズナ
- ・ニラ
- ・ニンニク
- ・ヤナギタデ
- ・セリ
- ・カラシ
- ・ペニバナ
- ・ヨグソミネバリ
- ・ヒメグサ
- ・キハダ
- ・アズキ
- ・カラムシ



石の材料となった黒曜石
先土器・縄文時代
和田村和田峠採取
和田村教育委員会寄贈

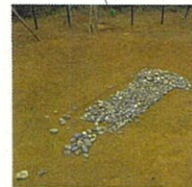
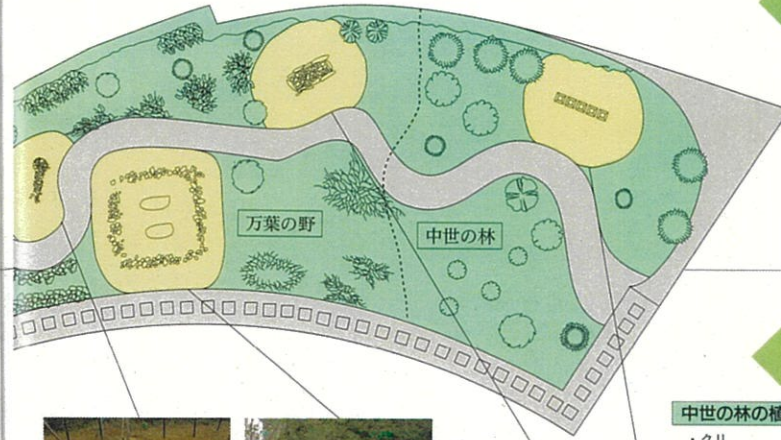


石の材料となった安山岩
先土器・縄文時代
佐久市下茂内採取

縄文の森の植物

- ・ヤマガリ
- ・コナラ
- ・ミズナラ
- ・オニグルミ
- ・トチノキ
- ・ヤマボウシ
- ・ヤマユリ
- ・サルナシ
- ・カタクリ
- ・ヤマノイモ
- ・アカソ
- ・ハシバミ

屋外展示 縄文の森、万葉の野、中世の林に分けられたそれぞれの特徴ある植物の中に、各時代の石の遺構が配置されている。



縄文時代の石棺墓
弥生中期（2000年前ころ）
長野市松原遺跡



縄文時代の石棺墓
弥生中期（1700年前ころ）
飯田市藤田遺跡



古墳時代の石室
古墳中期（1500年前ころ）
長野市大星山2号古墳

中世の林の植物

- ・クリ
- ・ヤダケ
- ・ヤマガキ
- ・マメガキ
- ・ザクロ
- ・ナツメ
- ・アオナシ
- ・ヤマナシ
- ・アズキ
- ・ヤナギ



五輪塔群
室町時代（500年前ころ）
長野市松原遺跡



屋外展示の景観（エントランス側より望む）

屋外展示 歴史のこみち

屋外展示には縄文（一万二〇〇〇～二四〇〇年前）、古代（一六〇〇～三〇〇年前）、中世（八〇〇～四〇〇年前）のそれぞれの植物を再現し、おのの森に県内各地で発掘された遺構を配置した。名づけて「歴史のこみち」という。

縄文の森 縄文人の生活の舞台となった森は、クリ、ドングリ（ナラやクヌギの実）などの木の実は宝庫だった。これらはタンニンを含んでそれを食べ、漆を使って木の器や土器を飾った。この森には、石敷きの家の跡（敷石住居）と板石を組んでつくった墓（石棺墓）を設けた。

万葉の野 古代の野は、だれもが自由に利用でき、モモやナツメの実をとった。人びとはアジサイやアカネの花にたくして『万葉集』に数多くの歌をよんだ。

万葉の野のあたりに、弥生時代の床に小さな河原石を敷いた木棺墓と盛り土の墓（墳丘墓）、古墳時代の石室を配置した。

中世の林 屋敷のまわりには、カキ、ナシ、クルミ、ザクロ、カラモモなどの果樹を植えた。村のあちこちには、栗林や竹やぶもあった。この中世の林には室町時代の五輪塔が置かれている。

屋外展示 歴史のこみち

展示設備について

展示設備について

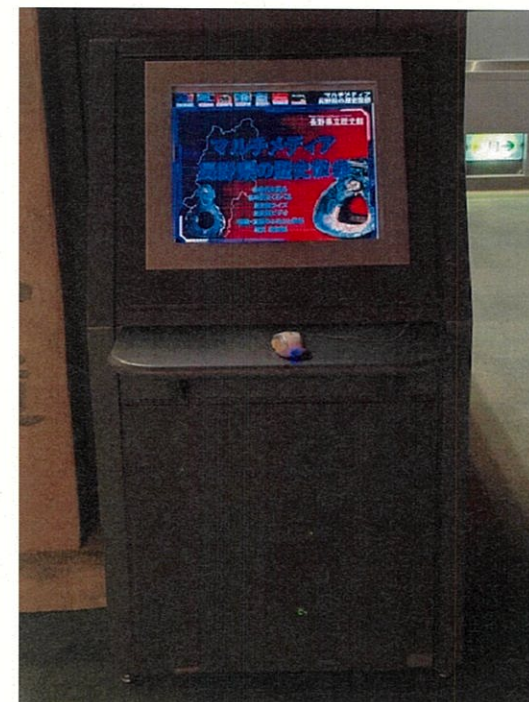
展示に関するデジタル機器のあり方

- ・現在使用しているマルチメディア機器・映像機器は開館当初のものである。

○全国の歴史博物館におけるデジタル機器等の導入、活用状況はどうか。

○デジタル機器等導入の意義や効果をどう考えたら良いか。

○デジタル機器等の更新や導入にあたっての留意点は何か。



マルチメディア機器

展示設備について

空調設備や展示ケースの更新のあり方

(1) 空調設備

- ・湿度調整の機能を有していないため、夏季は高湿度、冬季は低湿度（乾燥状態）となる。
- ・上記理由のため、温湿度の変化に弱い実物資料（木製品・紙）を長期間展示することができない。

○空調設備を更新する場合、留意点はどのようなものがあるか

(2) 展示ケース

- ・常設展示室内の展示ケースは開館当初から使用しており、気密性能が高くないものである。

○展示ケースを更新する場合、留意点は何か。

観覧者の利用環境・設備について

観覧者の利用環境・設備について

○展示室内の解説パネルの難易度はどのように考えたら良いか（例えば小学6年生程度を想定する等）

○幅広い年齢層の県民や観光客、外国人、障がい者など多様な観覧者を想定した展示の工夫としてどのようなことが考えられるか。（次ページ参考資料）

○バリアフリー化の観点等からの課題について

○展示室の照明、床面、通路等の観点につき留意すべき点は何か

○全国の歴史博物館における展示パネルやキャプションの多言語化の状況はどうか。

○同じく授乳室やキッズスペースなど乳幼児連れ家族への対応状況はどうか。

観覧者の利用環境・設備について

資料（浜松市の基本構想を一部修正の上転載）

利用者	展示の工夫例
未就学児	・ 色彩豊かでシンプルな解説パネル ・ 五感を使った素朴な体験を伴う展示コーナー ・ 親子で安心して楽しめる専用の展示コーナー
小学生	・ クイズやゲーム性のある展示コーナー ・ デジタル技術を活用した双方向的な展示コーナー ・ 学校の単元に対応した展示シート ・ 総合的な学習や調べ学習に対応した展示シート
中高生	・ デジタル技術を活用した双方向的な展示コーナー ・ SNS等で写真を共有したくなる撮影コーナー ・ 学校の単元に対応した展示シート等
大学生・社会人	・ 専門的な情報や最新の研究成果を紹介する展示シートや冊子 ・ 思考や対話を誘発したり、考えを発信できる展示コーナー ・ 現代社会の課題と関連した展示コーナー
高齢者	・ ゆったりと座りながら観覧できるスペース ・ 昔の暮らしや文化に関する展示コーナー等
障がい者	・ 車いす利用者に配慮した高さや間隔の展示什器や解説パネル ・ 音声解説、点字など、展示鑑賞を補助するツール等 ・ 開館時間の一部に、博物館浴が可能となる静かな時間帯を設ける。（例：閉館日翌日の午前中など）
観光客	・ 地域を代表する歴史文化をテーマにした展示解説 ・ 県内の文化財や歴史資源等の回遊へいざなう展示コーナー
外国人	・ やさしい日本語による展示解説 ・ 2次元コードを用いた多言語解説 ・ 外国語字幕の映像コンテンツ ・ 外国語の展示案内パンフレット 等

収蔵庫のあり方について

収蔵庫の拡張の検討について

現 況

- ・博物館の基本機能は、史資料の収集・整理・保存・調査研究である。新たな出土品を収集し、広範に利活用していくことが、本来的に求められている。
- ・本館の場合、30年以上にわたり史資料の収集・整理・保存・保管を行う中で収蔵設備の狭隘化が顕著となっている。
- ・考古資料収蔵庫のスペースは満杯であり、新規資料を受け入れる余裕がない状況になっている。
- ・古文書書庫も寄贈の受け入れが多く、あと数年で一杯になる。

県立歴史館としての機能を効果的に果たすための施設内収蔵庫のあり方

- 収容量に物理的な限界があるなか、また、発掘品等の増加が見込まれるなか、県立歴史館の機能を効果的に果たすための収蔵庫のあり方は何か。
- 施設の外部に収蔵スペースを新たに確保するとして、歴史館の収蔵庫と外部の収蔵庫の住み分けをどう考えたら良いか。